

教育課程変更にもなうピアノ指導についての一考察

丸山京子

A Study of Piano Instruction in a Changing Curriculum

Kyoko Maruyama

Summary

Due to changes in curriculum, more piano instruction was introduced. This was due to the fact that the time a student enters school until she undertakes her first preschool training activities had become shortened. Based on the results of a survey, the author discusses the new instructional method. In order to overcome the lack of preparation time before training begins, intensive piano instruction is required to quickly improve piano performance. In addition, more effective piano instruction is required of instructors.

Received Oct. 31, 2003

Key words: grade system, piano instruction, piano practical skills

1. はじめに

本学幼児教育学科では保育士を目指して入学してくる学生に対して、より実践的な音楽教育を行っている。それは卒業後の就職先として幼稚園や保育所を希望する学生が大部分であり、また、実際にこれらの職業についてすぐに役立つ教育をする必要があるからである。ところで、教育課程変更により平成14年度から保育士資格を取得するため新たに2週間の実習が追加された。そのため、最初の実習は1年次11月となり、入学から最初の実習までわずか8ヶ月間となった。この間、他の授業と平行してピアノ実技能力を高め、実習に備える必要性が生じてきた。すなわち、今までのピアノ指導よりもきめ細かい実践的な教育が望まれることとなった。本学幼児教育学科の音楽研究室では従来から学生のピアノ実技能力を高めるため、独自のグレード制度を設けて指導してきた。そこで、この教育課程の変更に合わせてグレード制度をさらに充実させ、11月の実習に備えることとなった。

さて、上記のようなグレード制度を体験した学生に対して、実習終了後にアンケートを実施した。ここからピアノ指導におけるグレード制度や今後の音楽教育の課題について検討してみた。

2. 調査の方法

調査日時：各年度とも実習終了時に行った。

アンケート対象学生：平成12年度入学生 123名

平成13年度入学生 127名

平成14年度入学生 126名

各年度とも3回の実習終了時における回答学生数にはアンケート実施日の学生の欠席等により多少ばらつきがあったが、全体的な結果にはその影響が少ないと思われる。そこで、全学生数に対する回答学生数の比率に基づいて考察を進めることにする。なお、新教育課程の対象となる学生は平成14年度入学生からである。

3. 結果・考察

1. 実習に向けてのピアノ練習

表1は各年度とも実習に向けて何日ほどピアノの練習をしたのかを聞いた結果である。平成12年度および13年度の実習は第1回目が1年次2月、2回目が2年次5月、3回目が2年次8月に行われている。実習先は1回目と2回目が幼稚園、3回目が保育所である。平成14年度入学生の実習は1回目が1年次11月、2回目が2年次2月、3回目が2年次5月に行われている。実習先は1回目と3回目が幼稚園、2回目が保育所である(以下の表も同様である)。4回目は保育所実習もしくは施設実習で8月に実施している。この4回目の実習は教育課程の変更に伴って新たに加わった実習であり、過去のデータがないのでここでは省いた。

表1 実習前のピアノ練習日数 (%)

		1回目実習	2回目実習	3回目実習
十二年度入学生	2日以下	37.4	39.7	29.6
	3日	33.3	37.9	48.1
	4日	14.6	12.9	8.3
	5日	7.3	3.4	2.8
	毎日	3.3	6.0	9.3
十三年度入学生	2日以下	15.7	20.0	23.4
	3日	46.5	45.0	44.9
	4日	12.6	14.5	13.1
	5日	8.7	9.1	8.4
	毎日	15.7	9.1	8.4
十四年度入学生	2日以下	18.3	30.4	19.1
	3日	51.6	48.8	42.7
	4日	17.5	12.0	15.3
	5日	7.9	3.2	4.6
	毎日	4.8	5.6	10.7

教育課程変更にもなうピアノ指導についての一考察

入学から実習までの期間や実習先の違いがあり、各年度とも単純に比較はできないが、実習前のピアノ練習量はおおむね推測できる。

さて、平成12年度入学生では、実習回数を重ねるにつれてピアノの練習日数が増えている。たとえば、3日および毎日練習した学生でこの傾向が顕著に見られる。逆に2日以下の学生は減少しており、全体として実習に向けたピアノ練習に取り組む学生の姿勢が上向きになっていると思われる。平成13年度入学生でも同様の傾向が見られ、全体としてピアノ練習に対する学生の意欲を伺うことができる。しかし、実習回数が増えるごとに2日以下の学生の比率が徐々に増加、また毎日練習した学生が減少している。ピアノ練習に対する学生の意欲が徐々に薄れていくようである。

平成14年度入学生では2回目の実習先が平成12・13年度の学生と異なり、練習量も若干異なった傾向が見られる。たとえば、1回目の実習に向けて半数以上の学生が3日間練習している。これは旧教育課程学生の1回目実習と比べて3ヶ月早く実習が開始されたことによるものと考えられる。また、ピアノ練習量については実習を重ねるにつれて、練習をする学生とそうでない学生に分かれる傾向にある。実習ではピアノを弾く活動が思ったほどに取り入れられていない場合もある。実習活動の中でピアノを弾く時間はごく限られており、実習全体の流れを考えると、その他の保育教材研究に時間を割く必要もあると思われる。このような理由からピアノの練習時間が少なくなっているのではないかと考えられる。

表2 1日の平均練習時間 (%)

		1回目実習	2回目実習	3回目実習
十二年度入学生	30分以下	12.2	23.3	25.0
	30分以上	52.0	52.3	56.5
	1時間以上	28.5	21.6	16.7
	2時間以上	2.4	0.9	0.9
	3時間以上	0.0	0.0	0.0
十三年度入学生	30分以下	9.4	26.4	20.6
	30分以上	60.6	47.3	56.1
	1時間以上	25.2	20.9	17.8
	2時間以上	3.9	0.9	2.8
	3時間以上	0.0	0.0	0.0
十四年度入学生	30分以下	7.9	13.8	21.7
	30分以上	57.9	65.9	62.5
	1時間以上	28.6	20.3	14.2
	2時間以上	4.8	0.0	1.7
	3時間以上	0.8	0.0	0.0

ピアノの練習時間は平均して1回当たり何時間ほどであろうか。表2から各入学年度別の傾向を見ると、ほぼ同じような傾向が読み取れる。すなわち、実習の回数が増えるほど30分以下の比率が多くなるのである。練習した曲目それぞれで得意不得意の差が出てくるがこの差が徐々になくなり、この結果、すでにある程度演奏ができる力のある学生数が増加し、練習時間が短くなっているかもしれない。また、先にも述べたように、他の教材研究に時間を割り振り、相対的にピアノに向かう時間が減少しているのかもしれない。さらに、練習時間が多ければそれだけ新しい曲に挑戦しているとも限らず、ピアノ演奏力の未熟な学生がさらに上を目指して練習していることも考えられる。学生一人一人のピアノ演奏力と練習日数・時間との関係も今後調査してみる必要がある。

2. 本学のピアノグレード制度とピアノ演奏力のステップアップ

平成10年に幼稚園教育要領の改訂があり、平成11年には保育所保育指針の見直しがあった。さらに平成14年の教育課程改訂によって実習単位が増加し、これにともなって第一回目の実習時期が早まることとなった。この結果、既存のグレード制度をより充実させた内容で行い、実習に送り出すことが必要となった。そこで、ここでは平成13年度入学生と平成14年度入学生とを比較してグレード制度がピアノ演奏力の向上にどれくらい役立っているかを検討する(グレード制度の仕組みについては丸山京子他「グレードをとり入れたピアノ指導の一考察」『岐阜聖徳学園大学短期大学部紀要』第35集を参照)。

表3 グレード認定結果

(人)

前期G	後期G	人 数		前期G	後期G	人 数	
		13年度入学生	14年度入学生			13年度入学生	14年度入学生
G 0	G 1	1	—	G 5	G 5	1	2
	G 2	3	—		G 6	4	3
G 1	G 1	3	—	G 6	G 7	1	—
	G 2	16	17		G 6	4	6
	G 3	4	1	G 7	G 7	13	8
G 2	G 2	3	2	G 7	G 7	—	—
	G 3	16	22		G 8	2	—
	G 4	7	5	G 8	G 8	—	1
G 3	G 3	1	2		G 9	—	1
	G 4	12	21	G 9	G 9	—	—
	G 5	13	7		G 10	1	—
G 4	G 4	4	4	G 10	G 10	1	—
	G 5	17	21	学 生 総 数		132	129
	G 6	5	4				
	G 7	—	1				
	G 8	—	1				

教育課程変更にもなうピアノ指導についての一考察

グレード制度は1年次に年間2回(前期・後期)各学生のピアノ演奏力を客観的に図り、ピアノ演奏の重要性を学生に周知させるために行われている制度である。表3は1年次に前期グレード認定を受けた後、後期グレード認定までに各学生がどれほどグレードアップできたかを示している。たとえば、平成13年度入学生の欄で前期G(グレード)項目がG1である学生が後期になってどのグレード認定を受けたかを見ると、同じグレード1が3名、グレード2の認定学生が16名、グレード3認定の学生が4名となっている。本学グレード制度では、後期認定は前期認定グレードのひとつもしくはふたつ上のグレードを受けられることになっている。従って、前期グレード1の学生23名の内20名(87%)が後期に上級グレードの認定を受けていることとなる。同様に他のグレードを見るとG0では4名、G2が23名、G3が25名、G4が22名、G5が5名、G6が13名、G7が2名、G9が1名となっている。これらの後期認定で上級グレードに認定された学生総数は115名あり学生総数の87.1%になっている。平成14年度入学生では129名の内86.8%にあたる112名が後期のグレードがあがっている。前後期の間に長期休暇がありピアノ練習のブランクが多少あると思われるが、実質半年間でグレードが上達しており、学生の努力の跡が伺えられる。

さて、表4は実習時にピアノの演奏がどのようにできたかを聞いた結果である。

表4 どのような演奏ができたか (%)

		1回目実習	2回目実習	3回目実習
十二年度入学生	ピアノ演奏	15.4	19.8	9.3
	弾き歌い	18.7	25.0	16.7
	見ながら演奏	7.3	13.8	6.5
	見ながら弾き歌い	5.7	20.7	14.8
十三年度入学生	ピアノ演奏	20.4	15.9	9.8
	弾き歌い	46.9	37.8	51.0
	見ながら演奏	14.3	15.9	9.8
	見ながら弾き歌い	14.3	31.7	29.4
十四年度入学生	ピアノ演奏	14.3	15.7	5.2
	弾き歌い	20.4	47.1	28.9
	見ながら演奏	20.4	15.7	26.8
	見ながら弾き歌い	22.4	21.6	39.2

各入学年度生とも数値に多少のばらつきがあるものの、ピアノ演奏だけできたという学生の数値は実習が進むにつれて少なくなっている。すなわち、12年度入学生では15.4%から9.3%、13年度入学生では20.4%から9.8%、14年度入学生では14.3%から5.2%に減少している。これとは逆に子どもを見ながら弾き歌いができたという学生の比率は5.7%から14.8% (12年度入

学生)、14.3%から29.4%(13年度入学生)、22.4%から39.2%(14年度入学生)にそれぞれ増加している。グレード制度がより高度なピアノ演奏力にどれほど関係しているかの相関はわからない。だが、ピアノ演奏力を上達させる目的としてグレード制度を取り入れた結果、ある程度ピアノ演奏が上達する傾向にあることが理解できる。

3. 実習における音楽活動とピアノ演奏

表5 その他音楽活動(複数回答) (%)

		1回目実習	2回目実習	3回目実習
十二年度入学生	手あそび	69.1	62.1	36.1
	紙しばい時の歌	12.2	9.5	10.2
	いっしょに歌う	49.6	37.9	25.0
	その他	1.6	—	—
十三年度入学生	手あそび	73.1	78.9	84.9
	紙しばい時の歌	6.5	7.0	12.3
	いっしょに歌う	67.7	66.2	52.1
	その他	6.5	18.3	21.9
十四年度入学生	手あそび	74.5	45.4	48.5
	紙しばい時の歌	10.2	7.7	10.2
	いっしょに歌う	83.7	43.2	41.3
	その他	—	5.5	0.0

実習ではピアノ演奏以外にもさまざまな音楽活動をつうじて子どもとふれあう事となる。表5はピアノ演奏以外の音楽活動を聞いた結果である。各入学年度とも最初の実習では「手あそび」と「いっしょに歌う」というふたつの活動の比率が高い。しかし2回目および3回目の実習ではこの数値が分かれる傾向にある。実習での音楽活動はピアノ演奏ばかりではなく、その他のさまざまな音楽活動が考えられる。子どもとのふれあいにはこれらの教材研究も必要となろう。さらに、実習先の要望もあると思われるが、音楽活動以外の実習活動がありこれにも時間を割かなければならないと思われる。しかしながら、実習での音楽活動の基本のひとつがピアノ演奏である。子どもにとって、保育士の弾くピアノにあわせて歌ったり遊戯をすることが、子どもとのより深いふれあいの空間づくりとなる。

先にも述べたが、グレード制度の結果からは比較的短期間にピアノ演奏力の上達が見られた。実習時に子どもと最初にふれあい、また子どもの心をひきつけることができるもののひとつに、ピアノ演奏が考えられる。子どもの一人一人を見ながら一生懸命ピアノを弾くことで、子どもとの信頼関係が生まれると思われる。

4. おわりに

本学科に入学した新生が最初に実習に参加するのはその入学年度の11月である。この間夏期休暇もあり、実際には入学してから半年も経過しない間に現場での実習が行われる。平成14年度入学生に対するアンケートでは短大部入学前のピアノレッスン経験も聞いてみた。これによると、約75%の学生が何らかの形態でピアノ経験がある。しかし、このうち41%の学生が中学校段階でピアノレッスンを止めている。また、ピアノ経験が全くない学生も約25%いる。このような状況の学生に対して、どのようなピアノ指導を取り入れていったらより良い効果があるのでしょうか。先の論考（丸山京子他「グレードをとり入れたピアノ指導の一考察」『岐阜聖徳学園大学短期大学部紀要』第35集）では、夏期休暇中のピアノレッスンの必要性についても触れ、これを今年初めて導入してみた。方法としては、夏期休暇中のピアノレッスン希望者に対しレッスンをを行い、グレードの確認を行った。しかし、希望しない学生も多くあった（レッスン希望者は取得グレードが低く、そうでない学生は取得グレードの高い学生が含まれる傾向にあった）。表の数値にはこの学生も含まれており、取得グレードの高い学生ほど自分でレッスンをする力が備わっていると思われる。その結果を表6に示してみた。

表6 平成15年度入学生のグレード確認結果
(夏期休暇中) (人)

グレードアップした人数	113
グレードアップしなかった人数	12

このグレードの確認は9月末に全員を対象にして実施した。そこでは113名が7月の前期試験時の取得グレードよりワンランク上のグレードレベルに達したという結果になった。逆に、そうでなかった学生は12名であった。先にも述べたように最初の実習は入学時の11月に始まる。しかし、平成14年度は夏期休暇中のピアノのレッスンを行っていないので十分な検証は出来ないが、平成15年度入学生は多くが短期間にピアノ演奏力が身についたと推測出来る。ピアノ演奏力を高めるためには短期間で集中的な練習とそれに対する指導が効果的ではないかと思われる。その前提としては指導者はたえず学生に対して、ピアノ練習の重要性とそれから広がる音楽活動の保育への効用を学生に意識づける必要があろう。

今回は夏期休暇中のピアノ指導を受けた学生の結果である。今後は冬期休暇中や春期休暇中にもこの方法を導入し、学生のピアノ演奏力上達に生かしていきたい。

さらに、本論では直接触れていないが、幼児教育において音楽活動が必要であることは過去の実習アンケートで、実習参加学生の大部分によって認められていた。これは幼児の教育ばかりでなく、初等・中等・高等教育や、他の教育でも同様であろう。また、先年より各方面で生涯教育の中に音楽もとり入れられている。このような状況のなか、本学の他の学生に対しても

丸 山 京 子

何らかの形で音楽に親しめる環境を整えることが考えられないであろうか。今後の音楽指導のあり方を考えたい。

参考文献

1. 丸山京子他「グレードをとり入れたピアノ指導の一考察」『岐阜聖徳学園大学短期大学部紀要』第35集、2003年。
2. 田中まさ子編『幼稚園・保育所実習ハンドブック』（株）みらい、2003年。